源氏物語 八

1682
8

歸平
鄭庭文庫

御前義經記

八之巻目錄

下乃関うりゝ丸言錄

面影うつる面出のこと

一 ふ八三東ゝ丸ゝ也　船中ゝ丸言がゝうこと

人と敵る雲れ

面影うつる月ゝ中ゝの曇

二 下ゝ関の般昌　庄屋兼常蓋

欲面ゝ丸ゝ人ゝ門ちゝ

大敵のうる日　わげゝの人ゝ也

夢ゝ行ゝ中ゝ女郎

面影うかぶる南無の字

三 女房の舞姫

上方ち竜佛の京
梅川文義に伝ち色
はんはうあうげんのせりゆ

あつ猫ぐ毛姫ゆ
見猫とふう姫

四 兄弟のいの世塚

悪たよう四郎義
今義義の腰物

一 ふい三郎の前の船

浪のおてちがつふ帆ち十分にあまぶ帆ちはうげえ
して見りて揮かをなんどぞさりとへ自由かはそう。
一日一夜ゆ百里八りゆくひ。ち。ち。四里一ち。自然と風ゆ
まばるゆうとり七人の漁ちりいるまちるそふうさ
ちづむち人男の身のうよりゆるゆ今義一ぞくゆこか
ゆ怪津漢ちり高ゆ海上んゆまちたて山のちどうも
こうち飛鳥ゆるに陸ゆくまち屋ちうゆうちゆき中に後を
あうく高ゆ嶋高ちゆなゆ平ゆ中ゆつまぐ世めくゆ
ちとと高ぐうくまゆちしち天智ち里姫の田のうそ
めなうぬと海のちうち。ふざりまうちりめぐうひち接合

をとこ[illegible]とも人とも[illegible]風情。持統天皇まで[illegible]
下の宮と[illegible]よりの[illegible]
さみ[illegible]のわ[illegible]ひ他人まで[illegible]
伊勢[illegible]
[illegible]
さ[illegible]
[illegible]
[illegible]

御前義経記巻八
又

ゐる者ども〇ゆうとかくごしけるの者ども、とりつくゆりしたよ
絵ばかりをせこ[illegible]ゆうぬ今一枚ばかり
りそよ[illegible]と[illegible]ぬ[illegible]
書[illegible]紙[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]女[illegible]の月の下にかくろ
[illegible]女[illegible]
[illegible]
[illegible]

七つゆく毋にとうまれあり父と紙とをのくとせのとろ〳〵せどゝ屋
しゐゐ屋さちろう向てナ十八年そもゝが親方ゑとあを
なるゑゐ向りぬゐゐ年ぐくゐなんのようぐ〳〵ありくた
ようせらまことぐりとゐをゆうがろゐまり稲こそ屋もちぐゐ
ぬまゐ同屋して向りまゐといいれてごめんどうゐ屋ゐとゐこと
ゐやぐ〳〵つまく向ゐぐも張ゐ者らしく也張屋様ゐれ
とゐふ男かゐゐれけゐせい瀧川ゐ今十九ゐ〳〵くもりもゐつさ
なゐかゐろくとゐすれゐゐ〳〵ゐ雪紙にゐ世今義ゐ家ゐ
業門とゐ世ゐくよとゐまゐ伊勢ゐ惡瀧川よちぐゐさそ
ゐくゐのゐとゐぐゐぬまゐさんだゐ〳〵ぐ里ゐも張まそ父ゐを
毋にもゐさゐゐてゐとゐまゐ世ゐ世ゐ世

ゆくしゑのぶりくいるさん絵とと老女よそなれば仕方なしぶぬ
る女ゑんの月の下にかくろのもとへたれ月の下のまゑ月を
してくへまとしいまてゑ娘が色〳〵ぶはうちゑ〳〵ゑがとと
あのんでさこうもまゑ〳〵ゑのるととおりさいふくゆぬ
ゑ屋つぶりやゑ絵をぐこのそへうさ生涯付のまこに他国
者の人ゑむ不りさごとやすてにあく絵屋とられんわんぶく
生涯ゑやこいゑとかぐりた紙こそうあさ老りゑ
ぶりぶぐ娘のおこゑりをいまゑやうあるぶりんいそいぐ書
そんらまとよとぶけう都ゑろはむゆりよ年成深書ゑと
久後ゑぐそゑはり月ようり仕老をこざりとうや

二　下ち関のとんぐゑう
下り雲ちゑ涙よ入こんぐ水風ゑ有色

蔵屋敷人家ゑ見ゑとやゑあくぐいゑと色方見世ゑ家
なりゑはゑのり町ゑらゑけいのせのわまこかへて田舎ゑ天
代里り女郎一げいよりまれとゑりかぐこうそこゑり牡丹
せり病まゑ〳〵ゑ病気てだよせゑ〳〵ゑ安郎ゑもぐこゑろ女方ゑ紙
方ゑ役敷役ゑゑ花車ゑあやぐこゑいゑうまでとうへく
かぶこゑとちぐゑ出ゑすてゑ色ゑる教りゑ作ゑくぐじう
ぶりまぐゑ伝ゑり商人代ゑんへゑ物りくゑゑぐこを
ぐこゑ〳〵ゑうこりゑ役ゑりゑ家ゑ者ゑそちぐりゑとゑゑゑ
ぐ絲りくゑうちゑくゑんりくりのくりゑこゑて贅れ品流
ゑこゑんくぐゑれこゑ病ゑ者ゑりゑりゑぐ記けぶゑを
いゑまこぐんちゑこ屋ぐ〳〵ゑんぐゑりゑをゑ屋とめゑちぐゑ
せゑゑりゑりゑぐそんなりげゑいゑ女郎れいこゑちもどこ屋り

こせりさつめひくさもこさうこのみてのんびりとせぬ行とぐ又うこ田舎ぞうしぬきぐるもとあうこ傳しぬぐしにあまりわりくわぐあいふがかあくしいとぞまとそくおのえわまぐしてなまこ作ぬく添んらまぐしれ中にも松栢橘と
あけしのうんとぞなのしんぐ若なのしんぐ
ふるしへ樽酒ぞ和ぬやりくひぐ耳よりるこのぐ使ぬうす
ぐしぞしのう商人ぬ漆よへ四女ぬにあひかりくぞこふ
なるね若をおうりさなくそ和名ふ紙也あまさこびと
つまぬくよなへ用もぞ伝秋田宝上の紙ぐ能中庵源
こうぬ。種屋与こ次くとのう大商人毎年那波の漆よ依
物とけんぐぞとのまも若よ家の毎三千反帆と氣まに
あげこうぞ下代買よ毎とめこ屋ぞ毎入り立夏ぐ

先こくくるる人内通ぬけの毎や揚屋の亭主九屋のあ紙
と始一家家とんぐぐううてて漆よおむうひ兵衛のお前にい
このり毎年ぬ若ぬ毎年ぬ毎年ぬ毎年ぬ毎年ぬ
も色ぞうすぐにと紙さあた屋ぐあこにかうこ
商年を仕合こうぞなりくとぞ書ぐくぞあぐじみぬかむうさ
さ久年川お敷女ぬりぐりぬ大ぐ紙ぬのぐまぞやや
ぬぐさのつめひくさぞ年紙のぐぬ酒ぞ兵衛ぐまう
とぐぐ。屋久の友紙ぐ漆ぬ
青ふなんぐうく人何ぐ樽兵衛の紙ぞ今ぐうこにくかうう
ぐぬ女ぬ紙ぬ青ぐのんぞまう紙ぬしにぞ吉野ぬぐぬ上
ぞ。三味線ぬ恩儒めぐうけぬうぞ。書く二ぬぐりの酒ぞうう
ぬぐうこひくんぐぞんとうぬぐ書ぐうこぬうらけぬ

こゝ[illegible]えのち[illegible]せんそう[illegible]てそれといふもちろん[illegible]
に[illegible]福面ナ事へ[illegible]次のとり[illegible]大事を
ら[illegible]まをう[illegible]へなりん[illegible]海なりと
また候[illegible]なほ[illegible]に[illegible]大事[illegible]小事[illegible]
そら[illegible]ば[illegible]ば[illegible]
かゝぬうとうさびしさ。女[illegible]
うにくゝうつゝ[illegible]
こゝ[illegible]梅川[illegible]大名[illegible]三[illegible]の女
[illegible]紙[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]文[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
せつ。せんこうひんぐへ。これ花ぴく。まんりの。ぢうり。ちつり
く。乱ととせと。皆く。縁よりふ。今後。すで。女。ふりのハ
ゆ。孫ひ。ぐ。そ。こんぐ。家。と。とりぴ。ちと。ゆ。ち。こ。ら。ゆ。ま。せ。と
ち。ひ。新。よ。ち。ゆ。ぢ。ひ。ぐ。ん。ま。ん。ま。て。と。の。ま。ぐ。い。ふ。よ。ち。い。こ
ひ。ゆ。ぢ。ち。ま。わ。ち。ま。ま。ま

[illegible]

三　上方太夫高尾事

▲けいせいとう山梅川がんざ〜〜よりう。かくことは丸づくしんあうまうごまへはうしと
まろうーしーしつげいにくいはさあくいんせのこのーげくゆうさくしんぞくーしやく
梅川の義名のうへのこと　▲三浦同じうしんむつーしさすとはる

ひのうぶつうさうのひそんせ[illegible]ぐもあるほ山和歌のうそう
とをゆくいえ年分の新京の着くーしぶ。ひまを付ての悪性
ぐるひあやせいさあせうそーしもかまうびは蓋三西の
仙源町にうしひよりやどくみうりやどあつけをたんまし
そ内北女房いさーひくぶーとくるーとくしあさはぐみみ
かどにけうまんどうく傾城のとれーかまべれけてもどさ

もくまつや根れがあつまりしさあるうとやと女郎ハさうやう
とうひとうぐーとやーそんぐく見まりあくたとこれ男ごころ
つとかますそまのこなーぐ琴三味線が上よ茶の湯
々細川乃流とうこよ上代ゆうけくさくとうく年九令
もそこあまう和でハなの月名うとつり物と付くうとふ
るぐあのぐんぐやしまべ八月十八夜乃作ぶんいつまの人も京と
ようこ持と作り成々高曲をあぐさこあくく月とうるぶ
そうくとうてこうくやとうあげやれ座あよ物とんとひさぶ
うんよあうちうと物こうとんと稼く作とぐめたはよちん
ぐんぐかーあの作をちぶ月の中にあうのうら男ハ月ぐ偏
老同売ひくくまんうとあうのハとうあくこ時かたえがこまやうて
るととひ物ーくこ若ーりこの中と水のりくこねとうハいやう

おのをとりひまをすとて、ねまきしたれば、私が西善の方へまいりてなにことあまをぐうにむかいまいりくるとあわてさはぎあわてとおどろきうろたえ中くらとそこぬいたんどもまいりてこんとわうりをとれたあつかひのぢわり、祝りとけんをべおどりまいりたいとふうろ屋つくりとおどりたつきぢくりくりの酒を酒をのみてどくをぐーこれたとそこぬたまをうそうとふうろうが中へ水をこれをすへ祝酒酒のりくこれ中ぢやと夜とうにてうむまこまたぢまをたとふうへ中をまたぢとうへ今川とうをあゆふあわまりしぢたまをいたは男えれ来こんさよ生をすてまをたまをがおへたまをぐつのくをんおておうゆおのやへいけをとうおうぢびをぐうなうのどを行ておうぢ府三尾へいてまをたまをあへおをうをれぬとうぢ祝へかへにおりうへうをすぐるをくぢたまをうしておうとをゆをう

むりと乳ふなうとぢむーぐうろうへつくいうを亜をまをあつとををぢたまを今を上伊をいをとをあうを海をうひうりうまをべをあ都をて身ぐーらををいまりをとをいをぢぐーらへいうまをふをうをまをんをめをぢたをとをりくをわをうへ婆も沖をいぬをう海をとうをきりくわをうをうとむうーみをうと間よかどををいををれを伊ぐををういうくをんを都をををせをんををぢなんをぢ祝つをぐうをうひとを位身ぐ都のををまひぐ叫りうをう像をうをんをむのをつをををうーうを海いをいうく産をををうをををうをををうを

まべつゝわくゝめやうの女郎にあつくせうせんとおひこうさやがと
ありがーそとゝあげつゝめり。ゆゑそうふ言うとそとびがたあひふ
な女郎うんでこそいつてまべやまゝ人のおわひとかまをゝ今川殿
ぎうぞあくそ女郎つんでこひぞおろしとい五今川がめつとさ
ぞ海ゝあくゝぐさまといてまべおそうぐるをそうづて。
男ゝあうつとのさ海ゝこぎうゝ作めにうまをゝ。ぢけのい
といふ歌をりざとさふ。今川とのこゆゝ今かんお
のぞこひ。ぢ女いひ。陸のうこうあくゝあうぐ。
ぞ。白ひく。ぎうまめくそうつと。ぎりあんのる色よあまぐ
ひなぐゝとりく。ぢ女男ぢく。ぞあまにとうりく
ひ女郎ゆゝあ。ぞぐるて。ぞぐあんとゝぞ。ぞぐまといふさ
ぢ人ぢとゝ。ぞぐ。ぞぐ。ぞぐ

ごられとへとの月かうじしみそがいくのふまちふ
にかどのさそつやいきのれがんとくどのかんぬしうんさいんで
このとのふとはちがくの山伏乃三位流ごうせくちやくがとあり
て作おろしとゆ所角ぬがくらとまやがゆうもつさうて
をそこれどあびとを物よあるいくきくどの巣どらがけ
所ゆでい稲こがさう所かどでいかうかこあるぷうでいかい多がど
けあるぷそこくくられあげ所へよとうしたを中ひも分男
らいあやらがうがいあびりあくきひあうくかとうくさるがどや
とうふくぷんのるをとよる月とかる筋よのせどーありとぷその
場月へ多んうとよりて日へ目とをがうがいくくらい所ぷんを
きをびあるくを後出ていさ海くぷそまをとうくがつそ
こらうをかとーぷくくあんのとうふあるきくけとうまて

ゆ世乃あのくもなのあるま中世をとうるゆうれるのを
はうのうかかきをとをはぷをこの義をしせめて今
まであくがうをとうく菩提よりとうんとうふの一筋り。
さいこい信濃の山吉光寺まふたうのまをとうをうふ
彼寺に多り賢をもあうく生氣とあり。一会除泥佛の左
ふいんとぞんがうふ所ぷんくはあすれえんげ物語あるろ
うやくさうやはへ乃おいを海ごひとかが所よはまをて
敬寺ぬのえをあるあひくぷるれをゆう中ゆ今義一氣
弘にのうあげ所れ寺をとめえんぷ久ゆのれをあーどう
つうめうちゆくと河のうをうれをあうあ。ト女やをーうの
ゆまでかどをうして巧ーべく

四　兄弟乃婿背姫

日数ありとは云へ今義のゆうとして義のもちろんなれ紙帳一色代なれ威光とうちあがりしまざろうへぜんてもちやうさてそうぢやうもとろいろざるの。もとより長崎よりぞうてんと。山お猿よりさんまつをの日出丸伊と給ひひねるを夜ふろまを今義ふちうづくぴ紅よりゆれるかさて人をはまるやこそぐらたの月はたかろうのさよりしやうちゆ嬢よりちやうひめうちゆ盛れの形人とうて十一面観音ぞうりまひ仏光なれやと義ろうに今義おどうさ姫ぞ毎ゥ形見ぞまりつうはぷぐうりさうをふぞそちへ伊のゆとひまふぞんひ永雑波ようとあせとれ。同じ流の門ぞうじ紅芋屋とひ吉兵衛と中女高ゆ。則ちへ月のとしてうろありつく。雑ゆ後ゆと孫ぐひ

月毎の十八日まへおぬしの祝儀よごうてぞ執行なる形をこの
しぬんぐんとうを世まひぬ者ぐらにてうりまつぷ生し
里八九三あく父よとのまて毎ひとりとうけまりぬ宮めー
ひあゆまそまぐぷらくはくるしれわぐろくぐ出までいまのま
じれとぷくもはつくちこありしをとうー法眼をまぐうーぷのの
ゆとこちらぐひぬまぐそまこのりろりにてぷ月まそもろ雑俗よ
はのゆりこと海ーゆめとかろろ俗よ梅をれよこまりぬと
毎れをぐつーー伊勢の愚ぷまこめされ俗くとこ臣ぐぷのく
横こ武士てぷもわーぐ月の出赤むなりぷ色をれぐや
いぐ海ーと出ぐのみ猪ぷ代夜西ーもひむーアあげぷ古夜ふり
切ぐぷいちの月ゆこもんぷまりにてまー海りぬぷドれ実ろ名ゆもと
ようひよかぐる夜もすぐーろ酒ゆあけぐをつぐるわろーー武

まりぷ伯耆ぷよ迎よゆりこをゆ生ゆとつげろゆぐ八くろ
こび君ぐ一家にいーー海こ夜絶切く系幼ーー海赤風ふのまに
しこ志海こ紙よんのこーぬふの海ア一の谷のかりふ
てぷ人新ろんぐりこれぐ毎ろいりとゆろーぷどうひ義こてわーこんぷ
ゆどけーかーぬ迎よゆゆころーーとぷづまもおのゆなわてびま
ぷ色すゆれも紙これよぷ部おーしと孫むりぐらぷぬらー
こづまく志り孫けーになれふむ毎ふれ色これよ平ゆを
のこぷ海ひこうげつく大八ゆ孫海ぷ河こ八つのけりろわ
かーぷゆまこもひれこちーーろろとゆこぷゆーちをこま
ーー人くの鼻ゆまゆわく神の内より書金蛇ー寺
銭よろうこを人ぷうーれ花ーこのりぷ夜こーてけ
つこを夜ゆこを世まこーとゆ新ゆ海の海ゆまげむ男ゆぐー

名残り惜しく思ひ入り、つと涙ぐりにたりける。三国無比の阿弥陀仏と崇め
世の人々げに海へ身を投げんとて、ありし面影ばかりを、今を限りの
しわりとて、たれば一通をのこしてぞ、ぬれぬ袖にぞ、ひきぬ
小さいまるの人の乳もたずぼん書無比とひくさとみすひぬそ
のぶんよいくく

書無比の事

そもそもこの人の事、私ども世の者の女南羊十九さの生まれ
者、一切ぐりの目のトにてありける

一　そもそも世の姫母の、ものとくるべき人、ばかりと思こ
ばかり、実へとつづくよまいらしいくりそめぬ雅は
ひ多里へうらきりしくはる

一　十四九まで、ぶりとふ、ふりりしおん原十九の時分

ぶりにとあひ、ぶりよりこの人、中さんひ、私面相のところ、
ふ、ふめぐらい、中名れぶりうまんと中さんひの対ぬ、ぬ
つとあれさりとも、ぶりべさりとそんぶりりひ、ぬ
ろ、ぬ、中海ぶりさ、ぬる

一　そもそも、ぬ、ぬ、ぬ

りしなぐせいりのるゝ伝ぐら神ぐらまてかゝ風ゐんとら
まゝせい事

一　下の雲うて拵ゑとさ風してようぐらぐらもんぐ
ゆえぐぐ弦張の乃ゆあげさとぞんゝぐ和の人も雑
波の文雲ぐら弁しはいりうぐ和といたれりゝ御々
永中の打ぐうぐひ波のゝうぐともあんゝあぐまんぐうか
さるをゝりゝ市支

一　かゝぐかゝてゆとうまてゆつくもとなくいづまの人ゆもれ医
ゆてぐあゝくゝゝうゝ加れぐでのゆゝうかゝゝまゝせ
ゝゝいぐもあゝゝ月弦とうゝひゝゆもゝ風ゝゝゝいか
さるゆとありひりゝくゝゆゝう

一　かゝゝんゆぐゝれひ十一面観音ぐとゆらんわゝぐひゝうゝ

ぐひとゝひぜゝくゝ観ゝぐゝ見れゝうゝぐゝ遍のれゝうゝ和
りゝ書のゝうゝ変ゆ海山ゆ弁ゆえゆゝくゝゝぐひ
乃ゆゆや

春日

陽和ゆゝゝ

ゝゝゝ春ゝゝ今歳ゝ春ゝゝゝん。梅ゆゝゝぐゝのまゝぐゝん
てゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ

そもそもこれは、後生とんでふうきなる海上よりとんでへふさいまうるが
ほとをなりかりけるうくまの八蓮記はしもにとをる
めぐりさぶつまをまてといふ
一ぐ通じてふさいはのがたいよりつけ亜ぶやうたかいの
家運げ一あとどこ海上ゆあ〳〵ゆまにうつ今うう〳〵ふ
ぎいまぶのまつゆくよりは師ぶくくして相の一会ふうくに
入てぶ見ぶらぎうどいとぐせぶうりたよ今とけうふそこう
なさうのとまろ嬉〳〵さぶうちやうれ亜ぶ三
ぼろ御ぶとこへ前地獄よりらべからんぶくふうりへゆしこと
海をけてうほとふのくく海中にとぐこうまうせうと
ふ。あ中にめどさ海〳〵わうりどこれば今うう〳〵ぶのまこへ
ぎうれいづまもうりとうこふとあぶのう〳〵海中武

とあ海こ亜とうあげ。ぶつくうこおつまぶ母後ぶぐ〳〵うれうつ〳〵き
ゆをふのぎぶうくのうしげうふ〳〵ぬゆまでぬうひぬうもおと
うゆへなうしにぶうさぶぐ〳〵ふうりおれくぐとゆをけて老
めうまこへくよぶ光ぶぐあらまへんもうぐうれぶ
光の光れ後ぶぐ〳〵へんやうもあ
とあ亜ぶもうとにとのあふを皆ぶ
たうを中よへぶうりゆをとあげのふさへうぐをぐとあんどう
にぶづまもうをとうりてうぶつ〳〵なれふあうつこれうづぶ。ゆをあ
げをんととぐゆるをへぶうをれてをうう老へ小ふよをうを。
今ううふぐうまとゆのをぶ〳〵ふうりゆまぐうくうをぐを帆前
よれうぶ。ゆれもゆふう屋宅へ後ぶどう京ふ山清ふうもれへ
うをこぶ今うふうゆの名麗乃よむうもどげゆれゆをゆ

元禄十三辰歳

三月大吉祥日

大坂　泉屋平兵衛
　　方屋仁兵衛

京　　扇屋宗兵衛
　　上村平兵衛　刊板